



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 杉本 峰康 ■幹事■ 酒井 秀大 ■会報委員長■ 石井 慎一
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2019-20年度

第2694回

2019年10月11日(金)点鐘12:30 <晴れ>

<ガバナー公式訪問(千葉港RC合同)>

於:京成ホテル ミラマーレ

- ◆国歌斉唱 『君が代』
- ◆ロータリーソング『奉仕の理想』
- ◆四つのテスト ~言行はこれに照らしてから~
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

◇国際ロータリー第2790地区 ガバナー 諸岡 靖彦様
 ◇第4グループガバナー補佐 時田 清次様
 ◇成田ロータリークラブ(ガバナー随行) 小坂明宮己様

◆会長挨拶及び報告 杉本 峰康会長

皆様、こんにちは。本日は千葉港クラブさんに会場をお借りして合同でのガバナー公式訪問です。諸岡ガバナー、宜しくお願い致します。

◆委員会報告

親睦活動委員会より(河原大輔委員)
 11月1日(金)例会終了後に麻雀大会を行います。

◆幹事報告 酒井 秀大幹事

本日はございません。

◆ニコニコボックス報告

<杉本 峰康会長、酒井 秀大幹事>

一昨日、ノーベル化学賞を吉野彰氏が受賞しました。「リチウムイオンの電池」を開発で現代社会を支え、世界に影響を与えたこの偉業者の吉野氏は、小学生の頃の化学の先生の影響があったとのこと。

自分の将来を決める一つのきっかけを誰かに与えられ

るような人間になれたらと思います。

さて本日は、公式訪問で諸岡ガバナーにお越しいただいております。ご指導のほど宜しくお願い致します。

ガバナー補佐、時田様成田RC小坂様、宜しくお願いいたします。

本日のニコニコボックス	2,000円	累計	108,000円
金の箱	0円	累計	936円
ポリオ・プラス	0円	累計	0円

◆出席報告(会員数47名)

出席者数	欠席者数	ビジター	9/27 修正出席率
24名	23名	3名	67.39%

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	10/15・11/19	センシティブワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	11/5・11/26	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	10/16・11/20	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水		ホテルポートプラザちび
千葉中央RC	木	10/24・10/31	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	10/17	京成ホテルミラマーレ

本日の卓話

卓話⇒「国際ロータリーの現在とこれから」
 卓話者⇒国際ロータリー第2790地区
 ガバナー 諸岡 靖彦様



本年度当地区ガバナーを務めます、諸岡 靖彦(成田ロータリークラブ)です。本日は国際ロータリーの現況と、来年10月に100周年を迎えます日本のロータリーの実情についてご報告する同時に、私のロータリーに対する考え方を中心にお話しさせていただきます。

ロータリークラブ(RC)は、その会員であるロータリアンによって構成され、一方、国際ロータリー(RI)は、RCによって構成されます。ロータリーの創設者

P.Harris(1868~1947)は資本主義社会の勃興期の、商業道徳が忘れられてしまった1905年に、米国シカゴの街に信頼と友情の仲間を増やしたいという趣旨で RC を創りました。親睦と相互扶助が初期の目的でしたが、奉仕という目的を加えることによって全米に広がり、国境を超え、今では 200 以上の国と地域に、クラブ数 3 万 6 千、会員 120 万人を数える世界有数の奉仕目的団体となりました。こうした世界中のクラブの連合体を RI と称しています。ローターは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりで、世界に目を開いて幅広い奉仕活動を国際社会に、地域社会に展開しています。

このようにローターは奉仕という基本目標の下に、世界中に会員基盤を有し、クラブを、地域を、世界をリードしています。ローターの活動を確固たるものにしてゆくためには、一人一人のロータリアンがローターを熟知して、私たちが所属するクラブをより効果的なクラブに成長させることが大切です。クラブを構成する一人一人のロータリアンがリーダーシップを身につけ、会員組織を強くして、社会が必要とする奉仕活動を継続させてゆくことがローター活動の課題です。

本年度 RI の Mark D. Maloney 会長は、ここ 20 年間の会員総数が 120 万人のレベルで推移していることを停滞と断じました。情報化と交通手段の格段の進展がグローバル化を進め、世界の動きがより早く、狭くなっています。他方で地域紛争が長く尾を引き、経済や通商分野には対立と分断が進み、世界中がバランス感覚を失っています。「あと少し」に迫ったポリオ根絶にも、時間とカネがまだ掛かりそうです。マローニー会長は、かつてないほど分断化された世界に繋がりを取り戻すことができるのはローターであると断言します。ローターはより健康的で、平和で、持続可能な世界に向けた国連とのコミットメントを有し、他の組織には見られない平和と相互理解という精神の下に世界中の人々が繋がる事が出来、目標に向かって意義ある行動を起こすことの出来るインフラを有しています。今こそローターの出番です。ローターの組織としての勢いを回復させ、地域社会や家庭、職域に新しいつながりを創り、世界をつなぐことがローターの使命です。こうした背景から、マローニー会長は『ローターは世界をつなぐ』ROTARY CONNECTS THE WORLD のテーマを打ち出されました。

私はマローニー会長のテーマを受けて、「ローターから千葉を元気に」のスローガンを掲げました。千葉を元気にするためには地区内クラブが元気にならなければなりません。私の使命はクラブを鼓舞し、クラブを元気にすることです。地区組織の総力を挙げて、クラブを元気にします。

さて、ご参集のロータリアンの皆様に投げかけてみたい話題があります。皆様ご自身にとってローターの魅力とは何でしょうか、ローターを続けている理由は何だと思いいになるでしょうか？ 来年 10 月に日本にローターが生まれて 100 周年を迎えます。「日本のローター 100 周年実行委員会」が一昨年全国の RC に対して意識調査を行いました。この中に日本人ロータリアンの意識を探ることができます。(この詳細は「ローターの友」2017 年 11 月号に掲載)

上位 6 番目までの理由を拾ってみますと ①異業種交流ができる ②生涯の友人・仲間ができる ③自己研鑽と学習・成長の機会 ④例会が楽しい ⑤奉仕活動ができる

⑥心からの親睦が得られる… となっています。奉仕活動への期待よりも、他人との関わりを大切にしている、という結果でした。皆様の場合はいかがでしょう？

私の考えですが、「出会いの妙」、それがローターの魅力の第一です。2010-11 年度にクラブ会長を務め、その後地区へ出るようになってから、殊に多様な地区ロータリアンとの交流が楽しみになりました。GND、GN、GE と年々立場がハブナーに近づくにつれて、シニア・リーダーといわれる方々や PDG と接する機会が増えて、様々な人間像、彼らの奉仕活動の体験談、立ち居振舞い、リーダーシップのあり方を垣間見てきました。ロータリアンは対等です。ローターの会合では、公式、非公式に関わらず対面すればどんな著名な方でも対等なお付き合い、お話を交わすことができます。「ローターに No! は無い」とよく言いますが、回ってきた役目はお受けするのが良いと思います。ローターを学び、自分の世界を広げるチャンスだと思うべきです。苦手な分野であっても、ポジティブに受け取るべきです。不安な気持ちが準備を進め、問題意識を高めます。例会や奉仕活動では、意識して年代の違う会員、職業分類の全く違う会員との交流が視野を広げ、感性を刺激します。RI の青少年プログラムは年齢層によって設定が変わりますが、IAC、青少年交換、RYLA、RAC に参加しますと、ローターファミリーの幅の広さと若い力に教えられます。ものの見方、考え方そして何よりもローター観が養われます。このほかにもローターの世界的ネットワークの凄さ、R 財団や米山奨学会の資金力は奉仕活動にとって、大きな原動力であり、その事業に惚れこめば健全で素直な寄付協力に近づけると思います。

ローターの全体像を絵にして表現すると、どんなことになるでしょうか！『ローターの樹』をご覧ください。青木貞雄がハブナー年度の 2016 年の地区大会に RI 会長代理で当地区に派遣された渡辺好政 PDG が RI 理事をお務めの 2006-07 年度の頃に持論を展開したというのがこの図表です。樹を育て、森を創る発想は日本人の自然観によく嵌ります。森を征服して街を切り拓くという西欧人の感性との差が見て取れます。土壌(中核的価値観)があって、根(R の理念)があるから幹(R の目的)は育ち、幹を太らせれば枝葉(五大奉仕活動や 6 つの重点分野)が広がり、陽光を浴びて果実(R 財団)が実り、全体景観としての R の公共イメージが向上する…というものです。

この『R の樹』から様々なインスピレーションが生まれます。ロータリアンは「個」からスタートして自学(楽)自習して、個のリーダーシップを養います。樹を大きく育ててゆくには高潔性という土壌が特に大切です。ローターがローターであるためには、職業倫理に従って得た経済力が個人の奉仕活動の原動力になるからです。「クラブ」が地域社会に働きかける要件として、クラブが元気でなければ地域に対して健全な提案やリーダーシップが発揮できません。会員基盤を多様化させて、クラブを持続的に盛り上げてゆくことが大切です。クラブの活動計画は奉仕活動も親睦も絆を創るための相互の存在と役割を認め合って、タテマの活動だけではなく、上位の目的を共有し合うヨコワリのクロス・プロモーションを意識して動かなければなりません。この樹を持続的に、いかに強く育てるか、戦略計画の課題です。樹を育て、森を如何に創ってゆくかはクラブ会員全体の総意に関わります。全会員の討議で森を創る

ビジョンを構想してください。ビジョンができれば毎月の、毎年の作業計画を創って、実行してください。半月後、1年後の実行チェックは欠かすことのできない、次のステップに向かう大事な振り返りです。こうして樹が育てばローターの活動はますます意義深くなり、楽しくなることでしょう。

ところで、世界のローターと日本のローターにはギャップが生じている、ということをお聞きになっていませんか？日本のローターが重視する職業奉仕(実は、日本人ローターがこだわっているのは職業「倫理」のようです)は、世界中の何処へ行っても通じないというのです。職業奉仕とは職業上持ち得た専門知識や技能を生かして社会奉仕に貢献することだと、世界は考えているようです。職業奉仕を特別なローターを動かす土台としては考えていないのです。先の規定審議会で RAC を RI の会員として認める件や、例会の欠席補填(マークアップ)を当年度以内とする緩和決定には驚きました。しかしこの狭い日本列島で 2000 年もの永い間、自然神信仰(神道)、仏教、儒教を自生的に「餅をこねるように」創り、武士道や商人道に形成し、実践してきた日本人の思想の風土を考えれば、職業奉仕の重視というスタンスは軽率なポピュリズムよりは遥かに重いものです。日本のローターがガラパゴスとか、周回遅れで走っているという評価はいただけるものではありません。来年に迫った日本のローター 100 周年では、ローターという米国建国期ピューリタンの思想潮流を、日本人の風土、文化になじむよう取り入れてきた社会運動として正しく評価されるべきものだと思います。如何でしょうか。

さて、これからのローター- の方向はどうなるのでしょうか？5月から日本の元号が「令和」と改元されました。明治以降の大正、昭和、平成の 150 年はおよそ 30 年ごとに登り坂と降り坂を交互に経験してきました。平成の 30 年間の日本は、バブルの崩壊以後世界同時不況、大震災や自然災害がつづいて、降り坂の 30 年でした。外に目を向ける産業分野もありましたが、大多数の内向きな日本人は「井の中の蛙」と化しました。政府は内需を高めるために躍起になって財政出動しますが、国の借金が膨らむだけでした。人件費の上昇以上には生産性が目立って改善するわけではなく、低成長(時にはマイナス成長)が続いています。

令和の時代には、もっと大らかに、日本人が持つ相手に心を寄せる優しさが発揮される時代になって欲しいと思います。そして日本人がもっと国際社会に出て、世界に貢献でき期待したいと思います。そのためには、ローターと同じように、日本人は明確な国家戦略をもつことが必要です。先ごろ経済同友会が発表した『危機感なき茹でガエル日本—過去の延長線上に未来はない—』の、日本再生の処方箋をご紹介します。三次元の図表で表わせば、X 軸=経済の豊かさの実現、Y 軸=イノベーションによる未来の開拓、Z 軸=社会の持続可能性の確保、という社会の、近視眼ではない 30 年、50 年後を見通した構想を基本として、そこに到る道筋を考えなければならない、ということです。令和の時代を、「敗北と挫折」の平成の 30 年の延長と思うのではなく、危機感を持って、日本人の繊細な感性を生かせる健康長寿、地球環境、持続可能性を構築する分野などで世界のトップを目指すべきです。

1月のサンディエゴの RI 国際協議会で、GE として GETS に参加したとき、会場の入り口に掲げられていた標語は Join Leaders ,Exchange Ideas ,Take Action! … 「リーダーを集め、意見を交換し、行動に移せ！」でした。かつてのそれは、Enter to Learn ,Go Forth to Serve! … 「入りて学び、出でて奉仕せよ」でした。標語が変わったことの意味する所は、RI が戦略計画を構築するための姿勢を示しているものであると理解します。リーダーを集めて、意見を交換して、そして行動する、ということです。これが RI のこれからの行き方です。

以上で「RI の現在とこれから」というお話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。



第 2695 回例会

日時⇒ 2019年10月18日(金) 点鐘12:30

卓 話⇒ 米山奨学生(柏西RC所属)

胡 経緒様(中国出身)

